

東海地区における電子ジャーナル・ コンソーシアム形成の試み

- SDサブコンソーシアムを中心に -

三重大学附属図書館
木下 聡



報告の内容

- 1. 東海地区の構成
- 2. 電子ジャーナル・コンソーシアムの形成まで
- 3. 電子ジャーナル・コンソーシアムの現状と課題



1. 東海地区の構成

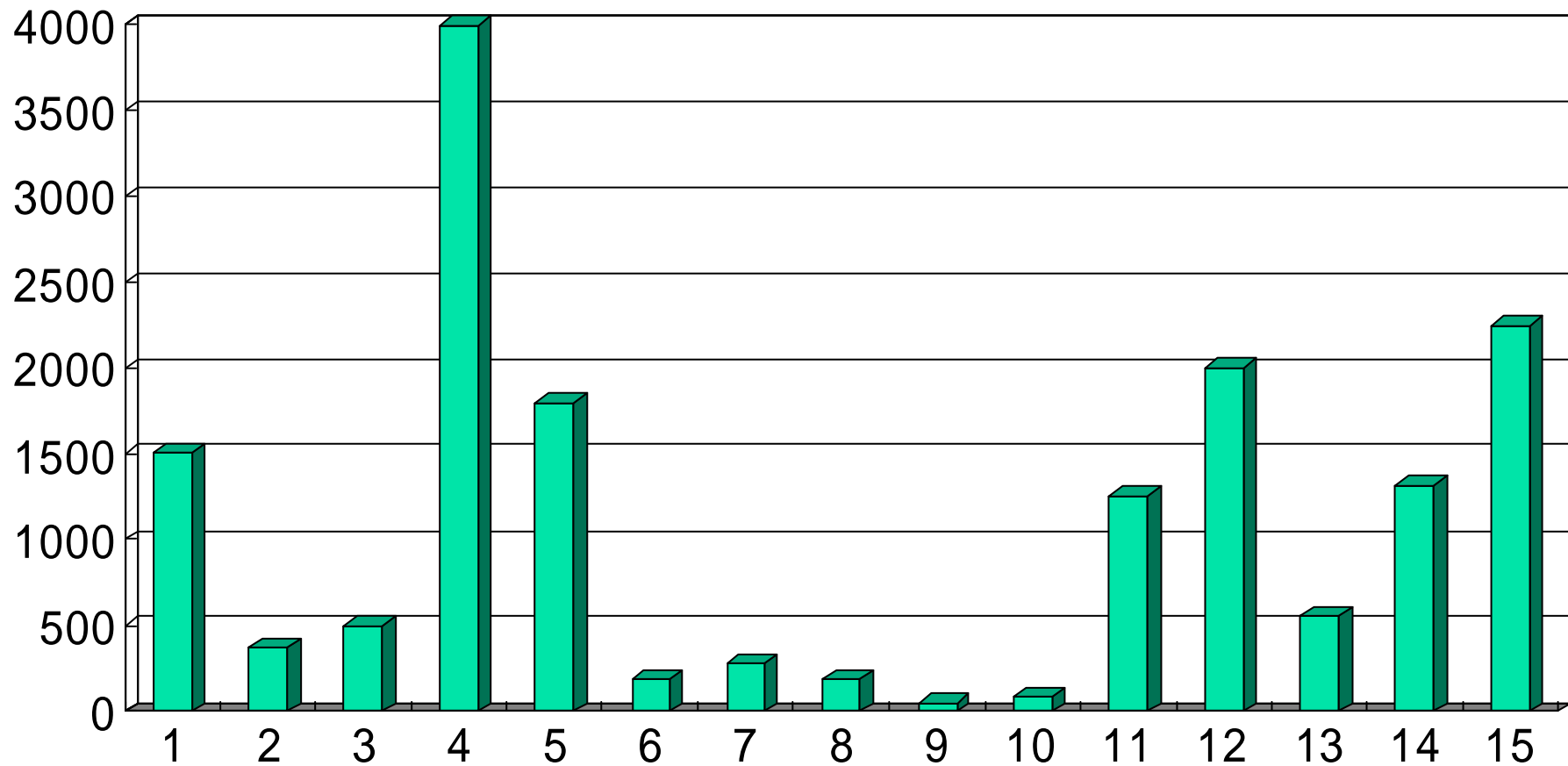
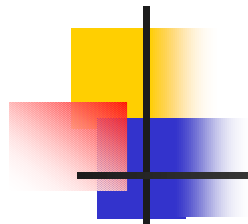
- 東海地区の国立大学・機関の概要
- 電子ジャーナル導入の状況
(コンソーシアム形成前)



東海地区の国立大学・機関の概要

- 機関数 : 15 (東海地区 11 + 4)
 - 福井医科大学、京都工芸繊維大学、大阪教育大学、神戸大学が参加
- 構成
 - 総合大学 : 5
 - 単科大学 : 7
 - 研究機関 : 3

電子ジャーナル導入状況 (コンソーシアム形成前)





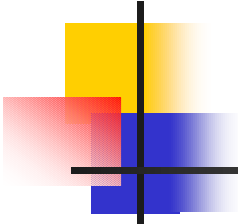
2. EJコンソーシアム形成まで

- 経緯
- コンソーシアム参加の条件



経緯（「中間確認書」と最初の提案）

- 2001年3月 「中間確認書」
 - 「サブコンソーシアムのご提案」
- 2001年4月 東海地区国大図協総会
 - サブコンソーシアム形成案
 - 岐阜大、浜松医大、名古屋大、三重大
- 2001年6月 全国国大図協総会
 - 形成案の白紙化



経緯 (サブコンソーシアムへの歩み)

- 2001年7月 東海地区大学図書館協議会総会後の国立大学ミーティング
 - 東海地区でのE打ち合わせ会準備会
- 2001年8月 実務担当者打ち合わせ会
 - 情報交換 :各大学・機関のE取り組み状況
 - サブコンソーシアム形成の協議
 - 幹事校の決定
岐阜大、愛知教育大、名古屋工業大、三重大
- 2001年9月 幹事校とエルゼビア社との協議



コンソーシアム参加の条件

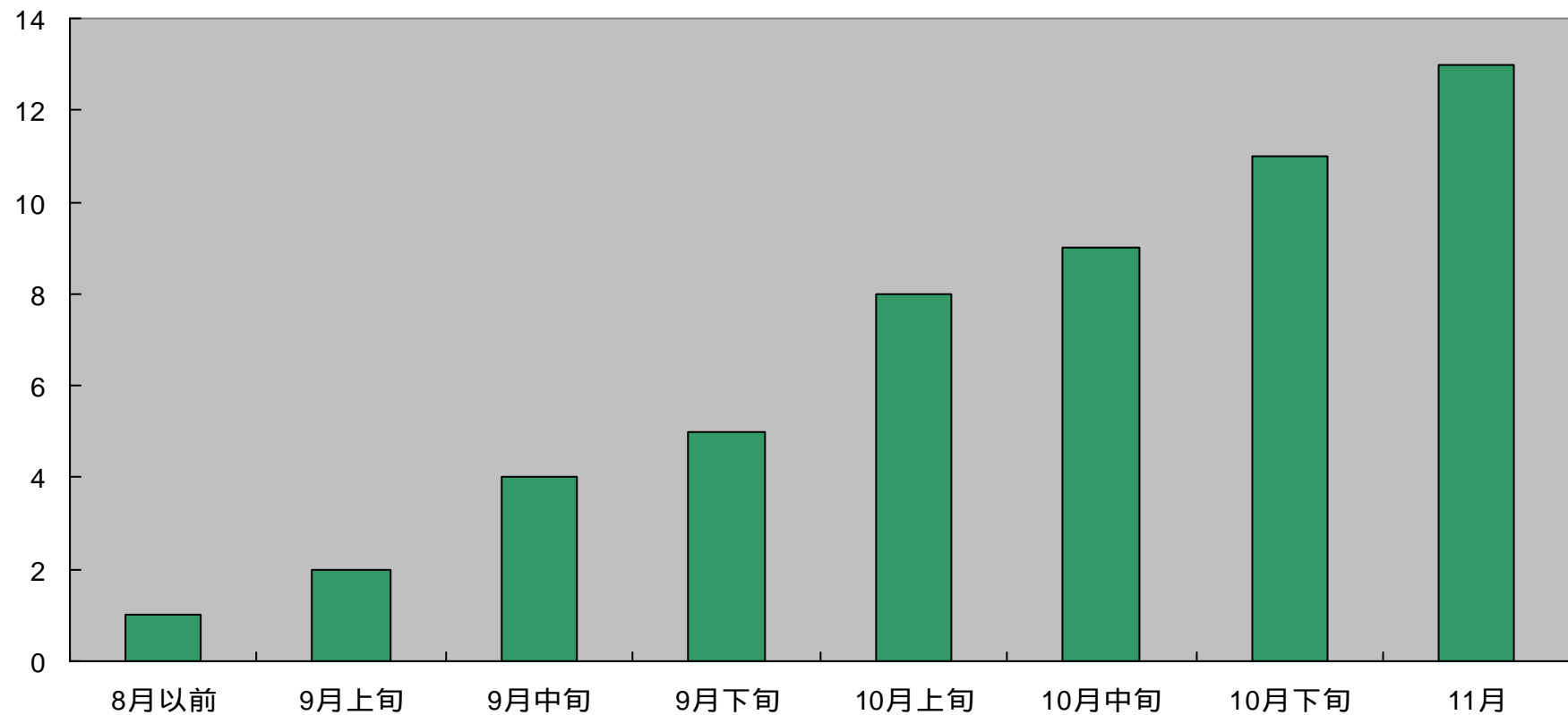
■ 参加資格

- 国立大学図書館協議会のメンバーであること
- 前年度の冊子体購読規模維持確約付きのコンプリート・コレクション契約を締結すること

■ 付帯条件

- 重複整理のため、冊子体購読金額の4%までキャンセル可
- そのうち1%までタイトルキャンセル可

SDコンソーシアムへの参加状況





3. EJコンソーシアムの現状と課題

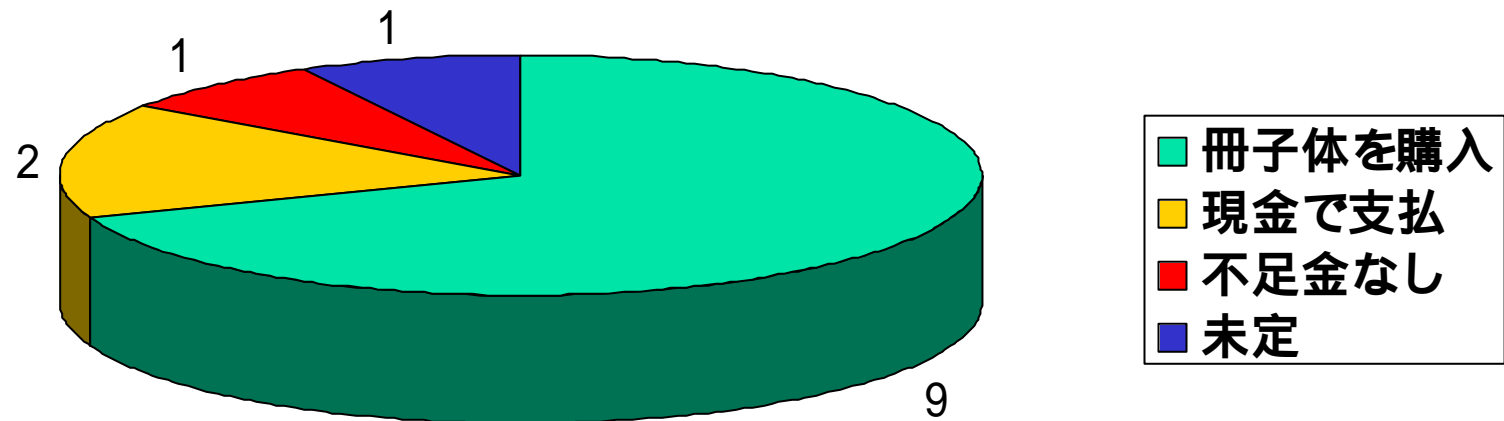
- 参加組織数増大の理由
- コンソーシアムの概要
- これからの課題



参加組織数増大の理由

- 各大学・機関の努力
 - 教官の説得 = > 冊子体の復活
 - 予算捻出 (図書費見直し、共通経費の獲得)
- 名古屋大学のはたらき
 - 館長名による呼びかけ文書
 - 情報の伝達、連絡・調整
- 実務担当者打ち合わせ会の意義
 - 情報交換の効果、刺激

各機関の不足額への対応方法

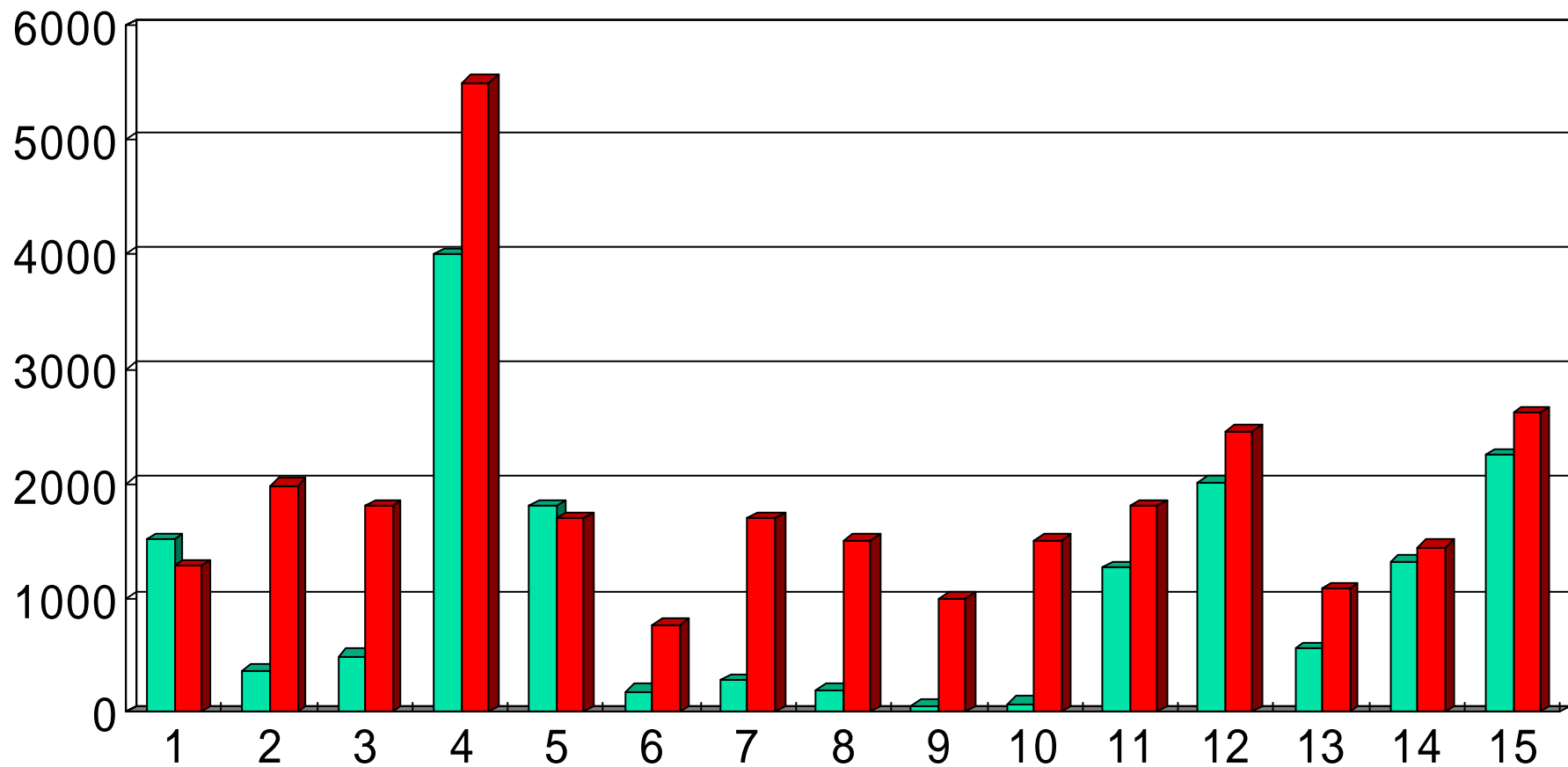




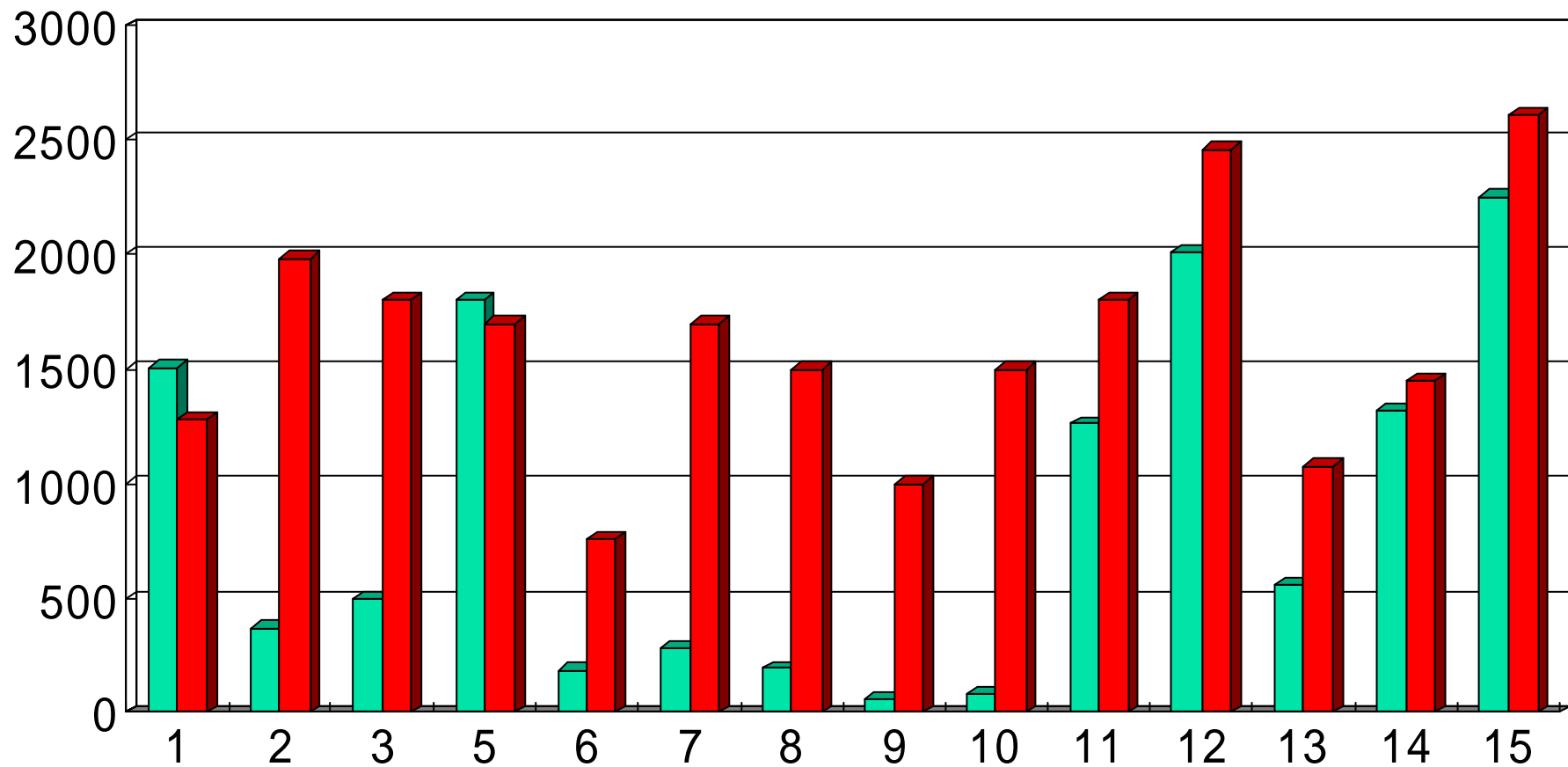
コンソーシアムの概要

- 参加大学・機関
 - 東海地区すべての国立大学・機関 10
 - 他地区の3大学 (福井医大、大阪教育大、神戸大)
- 運営体制
 - 幹事校の役割分担
- 東海地区から全国へ
- 電子ジャーナルタイトル数 (コンソーシアム形成後)

電子ジャーナル導入状況 (コンソーシアム形成後)



電子ジャーナル導入状況 (コンソーシアム形成後)





これからの課題

- 運営体制の確立
- 電子ジャーナル普及活動
 - ユーザー教育の充実
 - 文献データベースの導入
- 実務上の調整
 - 冊子体の重複調整
 - 契約・支払方式の検討・協議